

第17回 日本コミュニティ心理学会で発表しました

障がい者の就労支援に取り組む、株式会社コスモスが「障がい者の就労における心理的課題とその支援～障がい者就労における心理職の役割と意義を考える～」という題で自主シンポジウムを行いました。

2014年6月7・8日、立命館大学衣笠キャンパスにおいて、第17回日本コミュニティ心理学会が開催されました。テーマは「コミュニティ・エンパワメント」。コミュニティの持つ力を活かし、つながり、協働し、結びついた社会を目指した様々な実践や新しい研究について、発表者・参加者が共に学び考える2日間となりました。コスモスによる自主シンポでは3人の話題提供者がそれぞれの視点や役割から、障がい者就労における心理職の現状や展望について発表をしました。

「心理職員の役割と意義の調査から」

話題提供一つめは「『就労移行支援事業所における心理職の役割』に関する質問紙調査」について。発表者はコスモス共生社会研究所研究員の中村隆行です。関西圏の全就労移行支援事業所410ヶ所に質問紙を郵送し、うち139ヶ所から回収しました。心理職員の有無や、どの程度心理的課題があるか等について回答を集め、就労移行支援事業所における心理的支援の現状を明らかにしました。

調査の結果、95%以上の事業所が心理的課題を感じていることがわかりました。また60%の事業所に心理職員がおらず、そのうちの70%が心理職員を必要としていることもわかりました。さらに心理の有資格者がいる事業所の方がいない事業所よりも就職者数が多いという結果も見られました。スタッフ全体の人員を増やすよりも心理職員の支援が厚くなることで就労率を高めるのではないかと、心理職員の役割や意義をさらに見出すためにも、今後は、今回の研究で見られた結果をさらに詳細にしていく必要がある、と締めくくりました。



中村 隆行

「心理的支援で就職者数アップ」

話題提供二つめは「株式会社コスモスにおける心理職の役割」について。発表者はコスモス課長の伊藤由梨です。心理士を雇用している事業所の現状、そして心理的支援を取り入れることによるメリットについて発表しました。

「株式会社コスモスは心理的支援を入れたことで大きく変わりました」と伊藤は言います。就労移行支援事業所で支援を行う中で、訓練生とその家族にも心理的課題を持っている人が多いことに気づき、コスモスは心理の専門家に協力を求め、心理職員の雇用を始めました。「働くためには心の元気は欠かせません」。コスモスでは心理検査やインタビュー面接など心理士によるアセスメントを始め、グループSSTや個別SSTなどのトレーニングや心理療法等、手厚い心理的支援を訓練時のみならず就職後も行っています。そのため、心理的支援導入前と比べ、コスモスから企業への就職者数は飛躍的に増え、さらには定着率もアップしました。また心理士が支援スタッフの一員であることで、周りの支援スタッフも心理的な視点や姿勢が身につくなどスタッフ全員の技能の向上にもつながりました。今後もこの体制で支援の充実を図りたいとのことでした。



伊藤 由梨

次回は、大阪市役所で働くYさんへのインタビュー特集をします。

「現場のコーディネーターも心理職の重要な役割」

話題提供三つめは「就労移行支援事業所における心理的支援」についての発表でした。発表者はコスモス内の自立訓練事業所『こすもすくらぶ』の主任であり、臨床心理士の坂本亜里紗です。三つの就労を果たした事例と事業所で働く心理士としての役割と意義について発表しました。周りとはほとんど会話ができない場面性緘黙（かんもく）症の A さんは視線を合わせる練習やカードを用いてのコミュニケーショントレーニングを行うことで、意思疎通することの意欲が向上し、会話ができるようになり、就労を果たしました。周囲からの注意や視線に過敏となりイライラや落ち込みが目立つ広汎性発達障害傾向のある B さんには不安のコントロールを目指した認知行動療法を行いました。自己の容貌や他者の視線に対して強い違和感を覚え、周囲への攻撃的な言動があった身体醜形（しゅうけい）障がいを持つ C さんには自尊感情向上を目指した認知修正トレーニングを行い、問題行動が減少しました。以上のような支援は現場に心理士がいることで可能になったと坂本は分析します。心理士がいることで早期アセスメントや支援方法の検討や支援方法の助言、対応の仕方の共有ができます。心理的支援と生活支援をつなぎ、より効果的な支援ができるよう現場をコーディネートすることも心理職の役割であると、現場からの実感をまとめました。



坂本 亜里紗

フロアと意見交換しました ～指定討論～

「障がい者の就労を可能にするシステムを」

フロアにはたくさんの方が来られました。そこで意見交換を行いました。以下の質問や意見が出ました。

- ・就職後の定着支援やジョブコーチの活用について
- ・心理士の就職は福祉現場ではなく、病院の方が多い？
- ・調査の発表の中では出てこなかった成功事例と失敗事例で、印象に残っているものがあれば教えて下さい、などでした。

最後にコスモス共生社会研究所所長の藤木美奈子は、「障がいがあってもなくても就労できるよう良質なソーシャルサポートを受けられるシステムを目指して我々が努力していくことがコミュニティ心理学の本質ではないかと思います」と提言しました。



藤木 美奈子



たくさんの方におこし頂きました

訓練生随時募集

- ◆働くことをあきらめていませんか？
障がいがあっても、いろんな仕事ができます。
一般企業への就職を希望されている方、
利用体験をされたい方は、まず一度ご連絡の上、見学にお越し下さい。

企業の皆様へ

- ◆障がいのある方の職場実習を受け入れて下さる企業の皆様。
- ◆チラシの折作業等の事務補助作業の業務をお任せ下さる方。（その他の作業も、ご相談の上、承らせていただきます）
- ◆障がいのある方の雇用をお考えの企業の皆様。

皆様からのご連絡をお待ちしております。★次号は、2014年12月発行予定です★

<発行> (株) コスモス 就労移行支援事業所 (コスモス) ケアサービス 自立訓練 (生活訓練) 事業こすもすくらぶ
※地下鉄谷町線・堺筋線天神橋筋六丁目駅より徒歩約10分 地下鉄谷町線中崎町駅より徒歩約10分
〒531-0073 大阪市北区本庄西 2-10-16 TEL:06-6371-1696
FAX:06-6371-1219 URL:http://jobcosmos.jp Email:cosmos@jobcosmos.jp